

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



戀馬
繡史

朧月夜物語

三

新
五口七番
冊

遠 18
1850
9



透3
1850
9

思ひをくち

お中ふか

之期め



勝月夜戀香繡史卷之三

編

○直袋

浪花 柳浪陳人 著述

却況懐く助ハ細干屋ニ留滞居て年浪々やたちうら。明もバ文明
十二年。逆旅のうらふめでと云成途へる。同く二日のまご夜
まに登城をふせば屋形様おめりこれ首尾よく陣相をきほひて
三日の市松難をも津見せり。八日の市松開きの嘉例の通石まこれ
て執謂とまると。移りの寵賜を頂戴。さてや市暇をさるあひご
便宜は後途たうととまき有執事より令らうこれぬ縁て見女子ハ今
幾個おこれハ心月ごと指爪屈て待居る。世のお習俗さう。まご大人
といへも。自己が齡の頃くさくぬもあもいばさる還が心持し。年を

勝月夜戀香繡史三



且の乃どりしきと氣まはりのいとまじりおぼや況て那宇後田の家ハ
どう傳ふる梓う春待こりよりいと熱鬧く伴女考はいよ浮くら
居まども浮ぬハ揚り花濃くもおもひふるその旧年のその年とて
忘らさずすいとかあいの糸字もてまうせあふらるるふてと
一板の伴賦とままふふららる仕への分たは徒も移りゆく二光のそ
ろとほまる水長もよめ縁人のゆるゆる日とゆるゆる通るあいで別
悲しとよと揚り縁の香がねも仇しとろにうらうらみ袖ゆく水の
たえまかく人目か志のびほろろす細干屋が裏頭よハ襟も助も花濃
とまほおもひうとふらる胸のゆるせふく只快々として樂まべい
別亭小閑翁王方れるとほとらほこの白比と袴子ひき被とて
うち卧居るが午の貝多はしも旅店の嬰婢へまう市家老極より使

まいもろとて深江の總洗との紐してひとひ高時繪の文箱ににます
襟も助ハ懶懶起あつら彼高かじらお美向といよいと悲しく慌忙文
箱かひく死結ふとらあげんまバ佐世襟も助なまの吉岡と寫けり
おか債もくとす嬰婢小向いふその使の漢子這里へ呼まると嬰婢
いとろぬほてまう出しが聴て一個のま卒が傍ひとらぬ襟も助ま
まぬて膝方まいりれよとゆよを那漢子畏ぬと回唇邊て紺無大の
裾ゆいひとちり花の大脇指かると椽と指と襟も助が膝側はして
よる襟も助声け將使の方女と會投かかすまふまうと嬰婢小
分付望の酒有拿来らしむそのほは襟も助をうらひそめては又の板
うけたまわり得つ委細は只下へい合ららほとの顔かう遠をぬかく
守えらまよとらま卒のものかこま下後ハ可内といよとのま死

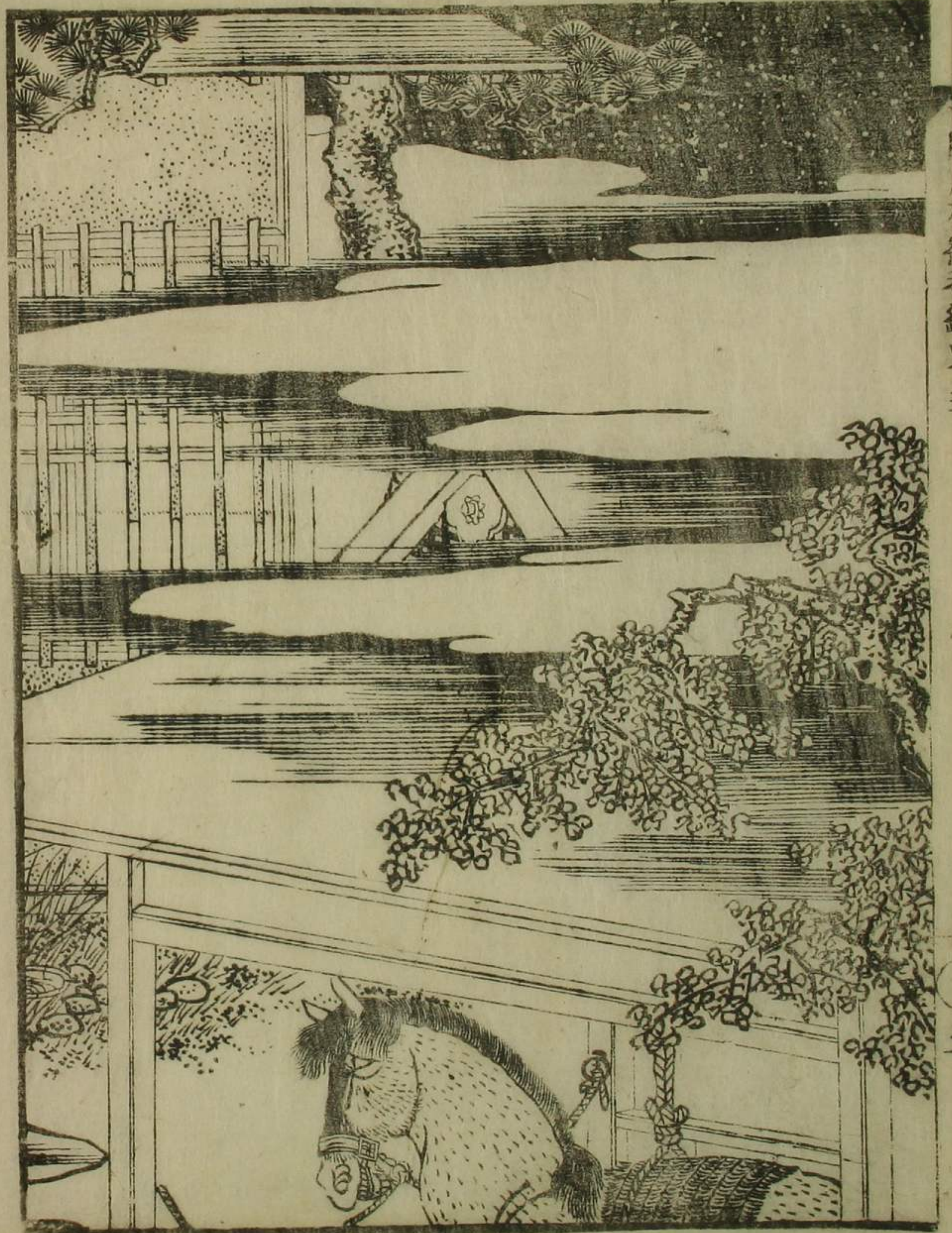
濃姐の乳母が子として腹を者小使。元濃姐今の屋敷へ申奉公ふられし
時より跟流ゆきて直は仲間より加へらる。そのまゝ勤居りいして文の表は
所房の名なかま。一人目か後らすそのおよて内意とやら如くこと
ちうくとりう蝶々助が耳よはして喋々助のこよふ。雀籠との
まゝ臂ちちる。獨りより圓金三片より出し。鼻紙よひつけ。とてそれ
當座の儀表收納するれ。と可内が膝前へ指さき。それ可内忽ち破顔
微笑。不料所費心用よふ。と口裏より喃々と辞するといへど。こ
ひ。い。とや。那金子な。い。た。だ。だ。て。懷裏と。い。ま。ぬ。この時婢ハ。盃盤拿出
ま。ば。蝶々助のや。や。こ。や。可内度行いかくとも寛と三盃おちらけられよ
ど。ど。ち。ち。ち。這可内ハ。極て酒中の餓鬼ふ。と。ば。と。や。咄。一。條。の。涎。を。流。し。
こ。い。何。う。の。盛。供。なり。と。そのまゝ。茶碗。を。把。て。さ。り。と。は。が。せ。よ。よ。

扱盃はけて飲不。たり。婢ハ。こ。を。な。ん。て。忙。し。桃。子。を。替。え。紅。い。蝶
く。助。さ。ね。て。那。事。ハ。豆。下。の。粉。骨。ら。ま。し。頼。ま。し。と。い。ハ。可。内。應。て。ね。い。て
そ。い。ふ。こ。ゝ。後。手。と。る。れ。と。い。ふ。の。こ。ゝ。や。だ。ら。さ。ら。ハ。市。に。い。ふ。や。べ。い。と。今。ま。子
ハ。笑。ひ。つ。酒。ハ。飲。つ。一。時。高。興。ふ。ら。る。お。お。謝。り。して。ど。ろ。ろ。と。大。踏。歩。て。ま
出。る。や。が。て。蝶々助ハ。主。管。を。衛。成。候。只。今。市。家。老。様。より。お。使。こ。さ。り。
丸。舞。の。市。用。作。付。ら。る。と。その。く。来。月。ハ。室。の。市。社。の。法。樂。を。も。は。し。め。ら。れ。り。
ある。に。う。せ。ひ。か。く。ゆ。け。な。り。と。さ。あ。を。影。の。目。お。お。歴。か。ん。幸。ひ。ぬ。路。小
ハ。番。代。の。衆。同。道。あ。ら。ま。市。長。命。も。あ。ま。ば。か。ら。く。餘。を。か。れ。奉。り。ま。り。ハ。
ま。ら。汝。ハ。久。三。が。の。し。と。ま。い。と。ま。い。お。ま。い。お。ま。い。都。へ。回。り。市。兩。親。ハ。貴。も。い。ら。の
中。ハ。岩。若。奉。つ。れ。と。い。ひ。ま。さ。せ。は。岩。を。衝。ふ。く。う。う。う。ひ。ご。ら。面。を。世。ど。
ま。ま。い。ら。ま。い。ら。も。あ。ら。ね。ハ。勉。強。承。引。詰。朝。鷄。鳴。よ。記。出。行。本。成

朧月夜談香浦史三 三二



走卒の可
内番葛花
山人と忌
はせて花
が房よ
運入



驛馬しんばのせ店みせ小こもあひく謝あやまぬのべふ奴やつ小こまの本ほん狐きつね托たくとてそのす別わかきてたたちいでる。さてこのふその日の未ひつ牌ばんとまの比ひ咄ばなし助すけハ僕わが久ひさこと
いひて遽はなよ公こう願がんのこ出いでままししゆゆ金きん毘ひ羅らへ汝なんぢ代しろ系けい差さとて一封ふとう
の香かう資じと一包ひとつかの碎くだ銀ぎん狐きつね通とほ忙いそがしくあつて。已ま信しんしし對たい生せい右みぎの
洞ほら度ど奴やつかかづけとかくともうらよとや曠あ景けい向むかはささのまはは後ごとつ
か套から穿くて店みせ面めんよ出いでままししゆゆ店主みせぬしも他ほか適あふふままはは渾こん家けよよ
かひて我われ等らととる人ひと誘いざなひひて市いち領りやう内うちの寺てら社しゃ巡めぐりり侍ざむらい今いま宵よより
那その里らへままわりり泊とどり居ゐて。明日あしたなな人ひと其その体ていより同どう伴ばんゆゆくくつつ小こ約やくととる。
又また回かへりり来きて勞ろう煩はん小こななりりゆゆ小こ二に哥か回かへりりああららはははは傳つたへへ給たまふふ所ところ
婢めかけも渾こん家けよよははいいて送おくりり出いでままししゆゆやや回かへりり来きまませせと口くちくく小こいいふふ。棟むね助すけハハツツイト
外ほか面めんよよここしてして。ううらら作あげげハハ太たい虚きょののかかととりり水みづををいいちちかかととりり光ひかり巴ひら。

山の姥おばは春はるささるるふふと。時とき分ぶんはと點ち頭づて。街まち坊ばが西にしままと小こは折ひれ
て。遊あそびの惣そう郭くわくの遮しや屏びんよよ入いりりて。藩はん士しのの小こ路ちくくななららはは経へいたた守しゅ
幾いく回かいの弟あによよ到いたるるにに恰たつ好こう薄はく暮ぼと人ひと顔かほもや勝か勝かたたるる。昨きのう可か内うちが
ト世よにに泉いづみ州しゅう父ちち子こ登のぼ城じやうのの苗なえ守しゅととおおががししくく。衙や門もんの隈かた々々連れん房ぶののまま。
瞬しゅん息そく人ひととて群ぐん動どうとて息いきする。環わん萃すいとちちららちちらら樹きののひひままより
火ひ氣きの射や来きるるハ院いん落らくたるる。棟むね助すけハいいそそぎぎ例れいの中ちゆうのの口くちふふりり。謁えつ
者もの又また遇あひひて小こ人ひとままいいふふ。明日あした當あた所ところ幾いく足あはははは左ひだり苗なえ中ちゆうハ市いち筋すぢににああり
感激あつぞぞんんととももりりやや黄わう昏こん小こ及およびびてて。右みぎ市いち礼れい市いち達たつととししととはははは
市いち筋すぢふふららししくく作あ票ひょうららとと下くださされれよよとと中ちゆう捨すててそそ小こらら後ご門もんのの方かたは
ままりりんんててああままババ仲ちゆう間かんももハハ涯げんふふ出いで盡じんりりんん。部べ屋やくく繼つぎてて寂さびたりり可か内うち
が教きやう導どうせせるる。ほほのの字じの標ひょう牌ぱいせせ。小こ屋やはは披ひららけけハハ馬ま院いんのの右みぎにに小こぞ

本々々々様々々々其のまゝに上りの間に尻けぬ恰好の時那
 可内一個の番葛籠を背負ふ。様々助をうらめて點頭合せて葛籠
 ぬかろし。忙しく蓋をひけて様々助を押しこみ再蓋をひけ中々緊く
 細り連雀がうけてこもを脊に負ひ角門より潜り入り風呂場の口を
 まぐろ局町ふらぬ第一房の廊板より花濃はくろぬえてごく
 くらり這里に待居る。可内はさう皮籠を却しお里の野具
 拿てまゝまろとつゝ花濃はものふまはらし柱ふこもを居ほしはけり
 くらり可内をハ労働なり。げは洗濯物にやくも出来しはとよるど
 くらりすげじふはやくまほ。葛籠を契きとれどいとまぐろひのた
 げなまば。可内これとて十分力を用ひてとやるゆへにらうどて房の
 裏面よひと入まらん。

○白胤

くらに當家の嫡男刑部少輔といへるいせまはて梟雄絶倫相狼堂にして
 勇猛扛げ虎を搏の怪力あり。十三歳より初陣して屢戦功を成に公
 勇の誉と世に蓋ふ。今歳二十三歳血氣まろし。猛烈なるが去年より
 屋形の内執事とす。究も日々回し鳥衣隆との威勢あり。ける登庸の
 執職ふまはたうとい直宿がちして退朝の日女をうらむ。然る小继母清見
 の方の了衆た濃といへる淑女がそもこの衙門を奉公し出日一那刑部
 くらに春戀こよふく愛すとい。百般にを盡して口説これども這た濃
 一種の古怪ある天性あり大おしかる小野の良實々女自己が標致小
 飽までわらう。とふらく世にうらめてあがち小懸相をももの直下に
 見はし女御更衣の渴望しとつゝ白雪なる高調よあはねど只これ

一個の風流なる年顔ありて。容止の俊俏なる美丈夫ありて。年
階老の鳶匹に做じて堅固肚裏に拙言居り少く小官人よりたばうり
慕ひていふれども鳥の首は白くたるも子引気ははかろうけ王はも大
勇猛の刑部女主後の威厳よてもまふふからぬハ兵路なる。鄙俗の講
ふつめる。應は否かろ想はちらす。夥ある了頭の班は年久く侍ま居る。
早百合といつる洒落ものあり。青春二十を逾頗る七八分の顔色あり
ろあくまで白く。肥滑なる肌膚は凝る膏のおとく。雲般の緑髪は漆
いっつも艶うなる。平素に己が容色は誇人もかげは振舞なるが正よこれ
妓王妓女ハ佛市前が新寵ハ憾々前魚ハ後魚よまつごるからい
曩に那花濃が當家よまう仕へしう。渠が容止の媿媚して一咲百媚
の粧態よハ一千の粉黛顔色無とらあぐ。這早百合さへ忽地は

壓よて花の邊の長春を刺し以隠せる風情なる。加禰花濃ハ由緒のもの
なりして。夫人の寵遇元ひかく。仕女班頭よ言これハ。早百合といふ
向くは妬猜ぬものいふうろろ。古来ハ士ハ朝よ在りて賢不肖とふ。議
らと女ハ宮よ入りて美醜とふ。妬まうといふ類なるべし。かくも早百合ハ
右思左想やろ。これ年比小官人ハ想な多し且暮凋落種てらぐ。故は
挑調めをど。魚風柳とまぬく。その道理あり。小官人ハ口管よ那の花濃姐
その心懸慕ふて。後いぬぞ。よなう後まらぬ。いふよして那の寛家とて
小黙をけたらや。ハ。小官人抑めてんぬ。己も小移され側室とて
身ハ必定かろ。とふろくえ子の一負も産ひま。忽地一場の富貴とて
といふものなり。慾と怠と小百計千を計較よ迷て居る。人を
ふき人の話をすとなん。一夕早百合内厨ちうた板間と歩ま



早百合白
 花
 子



影の俤の集合居て笑鬧く何事小やと猜疑瞬息彷徨
壁の縫々張るる耳としめて聞はれ終光といふ嬰婢の
着酒氣一のや。姐がびいおころはとや。頃花濃姐との容
子貞を悪く瘦し見えいつも不倒くと所前も早く退くか
とよ。うらふまうと會計の合ぬ何の以りり。とぐれて暴食の痲痺脾
虚。それよやく曲薬もかけず湯液をも飲ぬ。いとも合意の
ゆりぬ。そのとと葭原雀のお六と換做す。ういでい。いさあ青い
ころが直番まで侍居し。花濃娘自己飯桶を携来はし。ころが馬
て作と小ハ姐市おの父の下卑とこふまど。いりよせん痞の野為やあ
らんぞらん。このおぢらにこぶらく空腹ありとまき。痞さ。寒。てんち
煩ら。い。く。たあま。徹夜いと寐らま。ず。飯。を。喫。へ。は。ま。む。極。て。積。も
か。ま。る。物。う。う。密。よ。こ。ま。よ。飯。も。て。よ。ゆ。め。し。け。事。他。よ。は。は。せ。を。
痛。て。ふ。き。女。ま。こ。ゆ。る。こ。い。と。面。目。は。お。ど。口。が。ち。た。ま。い。と。互。い。罵。
花。早。百。合。逐。一。聽。と。や。一。猛。然。と。も。ひ。あ。ら。う。這。や。好。事。と。ま。は。は。ま。こ。
いでや馬脚。花。濃。が。罪。よ。と。つ。て。墮。と。究。竟。の。よ。蔓。よ。う。つ。と。
一。と。雀。躍。歡。喜。獨。り。こ。ろ。う。う。ぶ。づ。き。ら。ん。と。て。次。日。午。牌。と。ど。小。か。の。早。
百合の唐突も花濃が房なり。ま。ま。う。息。ま。た。は。け。い。ふ。や。う。小。姐。も。知。
い。こ。こ。ら。う。い。が。最。愛。の。お。兒。と。い。ひ。自。氣。目。前。禁。お。脱。て。い。づ。ち。か。く。ま。
らんか。あ。ら。ま。え。え。ず。う。う。ハ。頓。胸。は。ま。て。房。し。花。披。索。め。隣。房。の
雪峰姐どのよ。訣。けて。隅。探。ね。ま。つ。と。姐。の。蘭。房。り。索。と。せ。て。ま。
か。し。と。う。ら。ま。く。い。ふ。よ。花。濃。ハ。う。う。い。と。自。若。か。る。面。を。し。て。重。ハ。今
相。う。例。な。う。お。閉。こ。り。の。け。り。な。り。も。こ。う。う。夜。棚。か。ど。い。や。路。周。圍。せ

と侍らべ。うらぐ房かざり。白朮の匡と伏べき小は。他野はたげね
ふさしよといと膠なくも應るれを。百合姐うさひて。いっつもたしとあし
り。さうさうさうさうさうさうの童が念晴し。曲ても涙この裏面かアせてたよこ
いひもあひどつ。起て夜棚の引もよぬかかれむ。花濃い氣しゆて。面を
のぶとく。飛がとく小かへき。陽てあ。狼藉なり。早百合ぬ。かまへて
埋糸盡。做りたすひそ。這裏面の童が濁も釋し。着衣類ま。醜気
潤度かど八重と混雜うさくさくさ。いひてたやとくアせらとやうと衣
棚の襖よ。あなうらつ。死や奴とそれ。早百合も。今んせんと。べた。いと不
真げよ。出ゆさる。それ。は時。花濃の氣。濃け。この。て。涙。く。慌し。あ。た
く。か。て。と。う。さ。う。さ。う。三四。か。真。つけ。か。も。ぶ。と。も。放。を。不。下。百。般。多。般。と。め
ぐりしなる。

○風の燭

春色惱人眠不得。月移花影上欄干。了頭早百合よ。小燈を。手
かざら。後通ぬ。徐くと歩とまら。花濃が。臥房に。剥啄うら叩。さ。百合。て。い
ち。と。ち。び。き。と。つ。つ。て。多。う。た。り。と。く。あ。け。と。せ。治。へ。つ。い。は。時。裏。頭。小。こ。い
ぐる。と。さ。ひ。り。て。半。胸。や。ます。や。い。り。ア。と。て。花。濃。が。戸。口。を。お。ま。り。ふ。い。ち
早百合の。ま。う。て。在。を。か。路。か。り。ひ。う。う。で。侍。ア。う。そ。も。什。麼。の。と。く。と。さ。い
よ。や。か。ど。あ。い。と。ふ。けて。涙。を。た。ま。ひ。と。喘。息。應。へ。は。く。その。ま。雨
戸。を。し。ひ。ら。き。那。里。へ。う。せ。た。ま。ま。と。い。ふ。よ。と。早百合の。會。釈。し。こ。裏。面。よ
へ。但。ア。と。て。花。濃。い。り。も。さ。花。肉。動。り。容。子。彼。窩。の。狼。藉。か。る。た。く。み
さま。あ。ら。ぬ。う。に。花。の。精。び。ら。も。あ。やし。蘭。膏。潤。て。い。と。す。の。ぐ。り。花。燈
火。と。花。濃。が。簀。箆。し。て。教。み。あ。げ。る。極。を。い。と。と。や。う。も。お。ひ。房。が。う。た。え

朧月夜繪香集史三



朧月夜繪香集史三



百合ハ又面はく作をてておもしろいといふ文熟くいねたましいもの
 瓜心かくもろろ發け世ハ罪ふろくおぼえこづる只幾言も海量
 たやうやをきハ他事から守ぬかむ上已佳節たるよ夫奶ハの穴をせ
 終ふ所小神ハ竹まの衣をてふよの模振るありしやらん甲夜よ大
 奶ハの令ごとくつるよう姐くも其まに侍つ居よまいはきハ記得
 たやういかん本甲いちこやく記て薫然又うけとくこ成ころハ記得
 遺念しつるやとく上よハ所寢せたまはかかえてうかひもふしかう
 ふろふらとも姐くふけ事回ひてやうとぞてまうけうぬうふ
 守へたまはしといひはくも燭の葉を帯て火うげとあつるくは血う眼
 死して吃と回顧せばこよあみ周章ハあつるまて衣柵の戸の透ふまづ
 ふろふらと大夫の帯の端と大夫の裾をとたてこりころあつぬが佛し

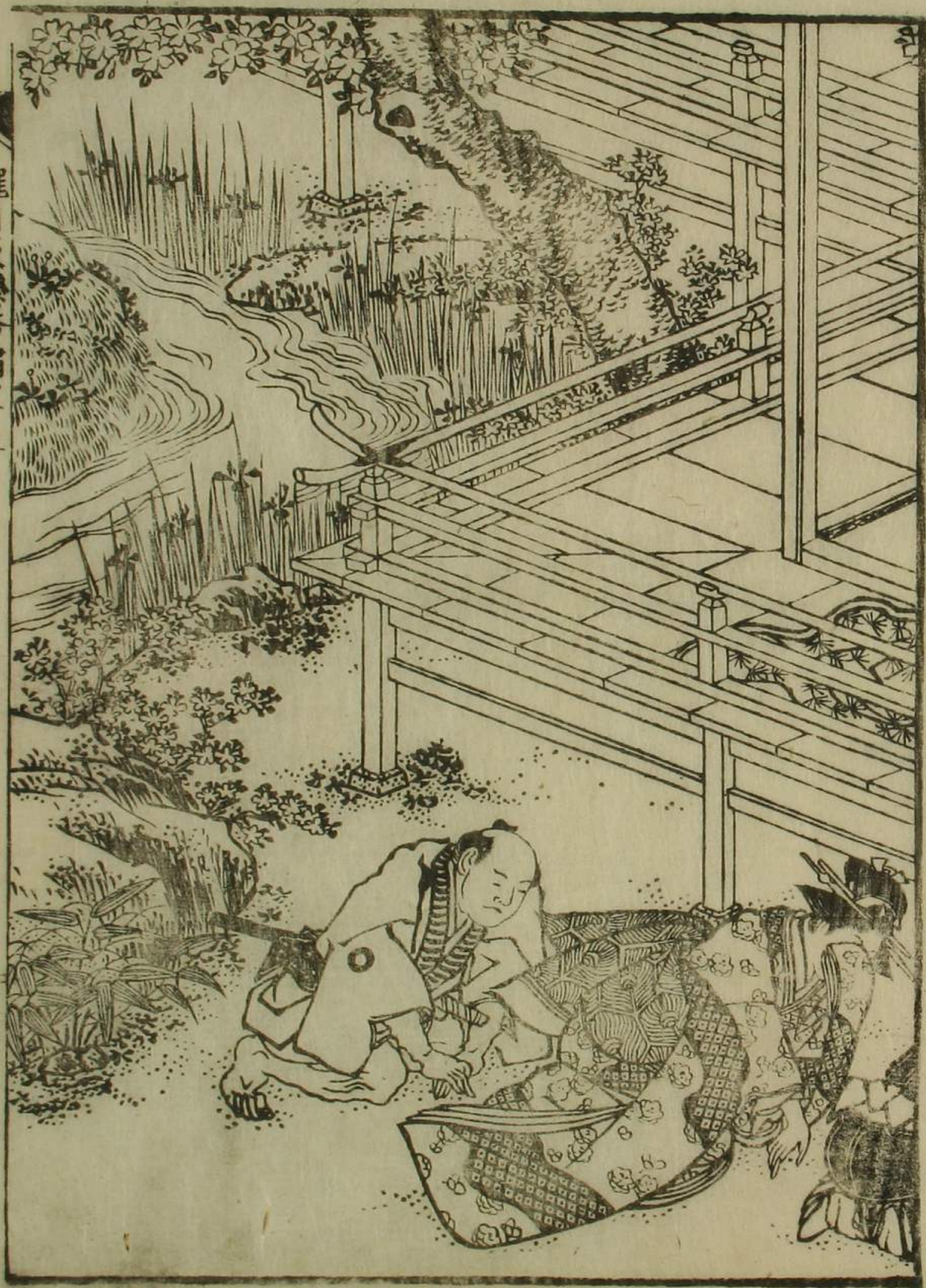
花濃ハ残喘くめて息うまハそのこふてらアうわろくまていふる
 形ゆりの際薄ふろろと深く魂消て紫空發ふせあつ大切くま月の
 所小神ふらハ揚川の金繡の模振るつ作せしと回るふ百合い
 北叟笑實とりしその瓜傳と志まつもゆせてたまはつほきと
 深く感謝てそのま其如紙出よるここの早百合ハ花濃ハ隱事瓜
 十を認得さハやくもと下とととと決定せう明きハ上已の洋賀
 して家主和泉守親子登城あり父泉州ハ其叔の宿直の番よあり
 ゆく直御殿よと下りありと子息刑部女補ハ休暇よと日脯退あり
 々もハ祝客追々入集合儀式形のおくけのい完りし刑部女やがて
 浴室よ入るも百人ハ當番ハ代り風呂場よとつ小官人の
 垢搔脊中流しつ票あくとハ罪なはらう票あけねハ不忠とある

いりふしてらんりつとすまをばしほばけバ刑部少八もとより
烈火のあつた暴性たまたまやく聞各てそ何さつふをいで不
忠よなるごとくふくは行時をも捨るし早くせし声厲うま
叱るふぞ百合ともしんふき風勢も口をげよつやうかる径
たのこやふういはいり胸肩も票あげん日以小官人とま即心とけ
たやふ花濃ハ養漢とあしらてけ其所以たつかりくと那大食のと
たふどり白煎の奉まも早雷の志どら一又二十耳おも刑部少
八をさやうら小面色赤くかろ白くを憤とる向てあうらう百合と
話とるたもまとず勃然して震ひ念り毒人心頭より突起一声
叫んで忽地浴室を飛出する百合ハ氣駛く浴衣を捨てりお穿せ
たる刑部少遷て帯いと志り短刀を脇夾と半平大刀くと咄らう

とて。騫直は花濃が蘭房は近う矢屋は後を陽放ら躲を伏し
たる様と助が弱腰把て寅は提げ恰も鷲蒼鷹の猿かんとお抗むら
びと。豁刺くと板を公踏踏しやく母堂清見殿の帳外をかけと
とらう小夥の仕女ハこたぬえて驚き強と雜餉は滑りて燈籠を
うら例とやう盆盤と蹴ちくすやら大家周章おけうとふら百合と
より小力もあまハ果とたつる花濃を背後よりつと倒し息の敵と
目比の眼おひい志まよと踏ぐり蹴る。擲る抗る。支なる髪を
ひよからと小官人の眼方よ後てひこづりゆとすす小官人たひ
それと女通めらすくは斬さいる。醜をよ做したまくと百般と罵
あうさいぐ刑部女ハ礼を慌て足纏たる仕女ぞうな鳴り退。小
書院の椽側よりいり榛と助は目よりうくこらげら杖五丈許

痛てうらひらとる 加蓋石に向つて直に體と撃つてはあしや
 十まら 薙粉ふかじとてんをくらふ 後力あつてや 那飛石とら
 ぐら 一株の躑躅の上よのけさまに倒ふをふの時又早百合を濃
 とバ 掾より下は 踴躍とる 刑部女ハ 近習がと出と長船の新刀把
 早く 援とませバ 明晃たる 鎧の光 霜のぶく又氷のど 入るふ
 氣も 消ぬの毛も 聳ちて 冷しと 説と 遅く 刑部女ハ 怒るる 眸を
 倒は 裂齒がむろしと 齒からしやとれとま下 濁むやくまつて首
 とのべふ 不美ひらいてる 蠱め 剩さへ身が 邸が汚せし 重罪いで一刀
 両腕と 俣とぐらと息またあつくよばとらなる 時時 襟と助が一命其
 危と事 正は 是風のあなる 焔火旭まじりみ 汚氷は 似たりからふ
 清見の方 忙てふとめとら 里まで 刑部女のみ 向ひふそら 塞る

やとま 女捕とやまうそ 和殿 怒いさるそ かうら ぶがのみ 云かま
 げい ぐら 汝の 處置は 任せふん まづし 志げまう その 大カともしと
 のむし 宥めとら されまは ざしと 猛烈なる 刑部女捕 流石世尙の
 育ら 現在 母親の 作が 恃らふ 親子の 礼儀 嚴うし 儘く 佩刀の 鞋よ
 納り さて せふら 拳と 握り 母堂に 對ひて 道やう 其今 家法を 正し
 成敗を ぶんと するふ 母親に かく 遮りて せとるひし ぞ 清見の方
 和やうよ 何いとも あり 和殿 せうら 何ん 允びい しくも 大刀を 納りし
 うし しかば ちの 老て せりへ 花濃 ぐといとも かんも 襟と 助ハ 親代 ぐ屋
 形 採の 市扶持人 とうや 市家 隸も 同然 科よ けりて けりて 誰が
 赤点もの ばあらん とうら 襟と 助ハ 京兆 藉の 者た けりし ば 成敗 せし
 そのうら 由縁と 室町の 同住所へ かく けりて ば かく けりて ば 成敗 せし



浪人の方
仁人入と
助け入
とら



け奉檢斷衆より管領の御聽に達し、とのづとこの制度世上は流布れ
 るが家は無死律ありといふれば、代々壁玷なき宇幾田の苗字、かか
 小事に耻辱を取らん、その取柄よく辨せし奉徳便に裁許をたは
 父上も極めて悪といひのこま、いと膝を叩きて説き、さうし、あれ
 取次の侍忙しく出まゝて、両ひねは、小官人こそよ、生やと、御殿
 御役あり、急御用として召る、あれ、即刻御出仕さるべきは、御側
 方の御口上なり、と、さあ、え、あ、刑部少輔と、さうも、取次を、出づけ
 上意の承承知とて、さう、早速、殿仕さるる、返答せよ、と、付了、
 母御前よ、むい、御利害の、と、あ、り、け、け、御方の、ふ、く、頃、の、御、石、を
 行事やらん、君命じて、石を、駕、候、候、と、い、ふ、又、あり、眼前、王君、の、御
 用、な、く、と、家法、な、ま、て、も、詮、ふ、さ、こと、系、御、前、な、下、る、よ、で、那、犯、人、を

母上よ、御、け、ま、あ、ら、守、や、と、皆、者、そ、か、犯、人、も、殿、敷、因、縁、と、ド、し、と
 怒り、い、奴、や、れ、い、れ、と、の、中、朝、服、あ、つ、た、り、て、母、も、も、式、代、と、供、人、引、具
 出て、と、ら、る、あ、と、小、影、の、侍、女、も、夫、人、の、作、な、う、け、花、濃、蝶、助、を、扶
 起し、髪、の、こ、れ、を、さ、ぶ、で、あ、げ、つ、あ、る、衣、袋、を、怒、い、せ、と、う、く、勅、は、る、中、に
 早百合、い、い、と、半、頂、面、ふ、く、と、う、て、も、お、は、し、花、濃、は、只、顧、咽、び、い、お、ま、ま
 の、目、を、か、と、り、ま、へ、勿、所、ま、と、怖、ろ、と、あ、つ、と、御、恩、を、仇、は、し、と、う、げ、と、い
 い、い、さ、う、御、家、を、け、つ、せ、し、不、忠、不、義、ハ、ま、と、い、悔、ま、ど、か、ひ、も、つ、く、早、く
 身、が、け、経、人、と、ま、さ、り、小、死、路、を、索、い、ま、と、侍、女、も、圍、繞、て、ゆ、ぐ、ん、と、せ
 ね、ば、せ、ん、と、ぶ、さ、よ、い、ど、し、か、げ、う、い、の、中、に、小、身、い、と、え、や、ら、で、と、う、し
 さ、よ、た、え、う、の、て、ま、な、と、か、ち、て、う、と、泣、中、を、早、瀬、を、な、は、る、て、死
 の、濃、を、強、よ、む、い、と、て、内、房、へ、は、き、ゆ、さ、り、と、蝶、助、最、前、の、刀、の

光榮々々たる麻乃で魂天外より飛渡冷りとし。たちまちふの下よ
 討ふ〜とおもひし〜この時かぬうつなぐ。こいとも婆婆迷途わ
 こまへうねいと悩げよ。顔が掻掻入る。胴よとてあうれいら
 かよ入公比す。廳上よハ刑部女殿をさねどもいままごと全く放心不下
 ころろの涙り。満面慚愧消も入る。凡情もこのまいつふる憂や
 へんとたぐ涙と〜いひもの股栗とけめて作どるる。こあさす
 夫人様と助と掾側ちつくる。それやよ襟と助。ころらむも不義とほ
 刺と吾衛門を汚せし。ハ其罪科誣。ハ孩兒刑部。ハ遷の所石
 ふうりせハ勿心地。刀下の鬼とふるべし。焼野の雉子。おの鶴子。瓜慈ぬもの
 わらふ。今の刑部女ハ先妻の子。ことも千種といへ。愛するあり。里の足
 かる。服路の城代。曾根對馬守。さふさふさふさふ。家の血筋の終ると教さ
 やびとぬ得ぬ。慎吟よ。しらハと。雨よ。ほけ。風よ。ほけ。おもひこころく
 ひもか。人の親のやう。ハ周よ。わらねども。子なねり。及よ。迷。さら
 ひ。今汝を罪。行まひ。け奉。系師。すえま。親。が。教。ハ。ほ。ら。ま
 ほ。ま。それ。い。と。と。く。お。よ。ま。ま。ま。ま。ま。泉。州。汝。が。父。と。ハ。無。二。の
 入魂。の。と。それ。を。こ。れ。ま。ま。て。命。を。饒。け。と。と。と。刑。部。が。退。ら。め。れ
 ぬ。う。ら。い。と。ま。く。お。よ。ま。ま。ま。ま。て。あ。ゆ。け。と。と。ハ。さ。う。さ。う。さ。う。案。内。と。ま。く。ぬ
 縁の天。いう。て。ひとり。ハ。歩。け。と。と。早。瀬。と。な。して。作。と。ハ。ハ。妻。卒。の。可。内
 こい。よ。や。つ。ハ。下。後。ぶ。ぐ。も。篤。実。もの。と。ま。ま。ハ。巢。を。は。け。て。護。送。せ。れ
 そ。れ。と。せ。う。と。て。たま。へ。ハ。早。瀬。ハ。い。と。た。可。内。が。み。出。し。夫人。の。作。と。は
 た。仔細。あり。て。密。り。ハ。這。の。際。と。助。が。都。方。ま。ま。と。送。了。せ。差。ハ。と。諸
 事。小。ん。つ。け。道。の。程。も。〜。勅。せ。よ。と。お。中。門。出。の。符。と。も。通。し



與由可内はほてこれをしりて作ぬかゝるをまふし居たり夫
 人うとねて膝し助を召されいとさやれる袂包なむづり賜ふ
 この一畏の金子ハせうぶと盤纏もほして悪かく帰洛せよと
 須弥滄海しちうびふきりぐとたうけて膝し助竹と謝とま行ま
 かる大恩のあ一をいつの世うらむらん佛の慈悲とほら感敵
 涙と助け田の重恩を忘れずいふ忠義を盡し旧恩を報らや報
 ころや且末の田を看て解たひね



朧月夜戀香繡史三終

